

クリンテートSNの効果確認試験



クリンテートSN(2012.10.25撮影)



クリンテートSN(2012.10.25撮影)



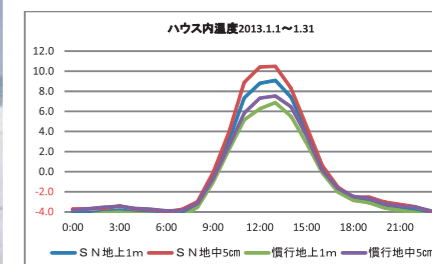
左:クリンテートDX 右:クリンテートSN(2012.11.29撮影)



クリンテートSN(2013.03.05撮影)



クリンテートDX(2013.03.05撮影)



	SN	慣行
地上1m 最高温度	9.1	6.9
地上1m 最低温度	-4.3	-4.4
地上1m 平均温度	-0.8	-1.4
地中5cm 最高温度	10.5	7.5
地中5cm 最低温度	-4.0	-3.9
地中5cm 平均温度	-0.3	-0.9

試験結果

- 作業性について(慣行品との比較)**
展張作業は問題なかった。今までは0.15mm厚で5年は使用していた。今回は0.1mm厚ということもあり何年使えるか関心がある。
- 透明性について**
隣接する長ネギハウスにクリンテートFXを展張している。SNの透明性も遜色ない。
- 資材の強度・耐久性・崩壊性について**
今までは0.15mm厚を使用してきた。試験品は0.1mm厚だが今のところ特に心配はない。展張時の破れ・裂けも無い。
- 促成・抑制効果について**
生育に差は見られない。両ハウスとも生育ステージは同じだが、収穫時期が重ならないよう、換気作業で生育を調整している。収量に差はなかった。
- 保温効果について**
ハウス内地上1mと地中5cmの位置におんどりを設置。降雪期間中の温度を測定。時刻毎の平均温度をグラフ化した。1日を通しての平均温度について、地上1m・地中5cmとも0.6℃クリンテートSNの温度が高く推移した。ただし、地上・地中とも同様な温度推移となっていることから、加温設備の影響を受けてしまった可能性も考えられる。
- その他(保温性、遮熱効果、害虫忌避効果)**
滑雪効果に大きな差は感じなかった。寒締めほうれん草は、ハウスサイド・出入口を解放し作物を寒気に当てることで、糖度を高める栽培方法を行っている。冬期間はハウス内面も凍ってしまうことが多いことから、滑雪効果が発揮されなかったのではないかとと思われる。

モニター感想

改良が必要。
価格は一般農POの30%アップとのことだが、それを上回る効果を実感することはできなかった。極低温下でも効果の出る改良を望みたい。

JA担当者の感想(生産推進課 有波職員)

寒締めほうれん草については、寒気を作物に当てて糖度を増す栽培を行っているため、ハウス内の温度が一定にできないことから、クリンテートSNにはハウス内の温度を上げることなく雪を落とせる性能が求められる。近年、冬期野菜の作付け者が減少している要因の一つとして暖房に係る経費が多いことが挙げられる。雪の多い新篠津村でハウス栽培を行なうには除雪やボイラーで雪を落とすなどしてハウスを潰さないような作業が行なわれており、少しでもクリンテートが生産者に望まれる商品になるよう農協としても今後試験などの実施も協力して参りたい。

試験目的

クリンテートSNの効果確認試験

試験作物及び品種

寒締めほうれん草

試験資材及び数量(規格)

クリンテートSN(0.1mm×920cm×74m)

慣行資材

クリンテートDX(0.15mm×920cm×74m)

栽培方法

播種日	展張日	収穫期間
9月30日	7月4日	1月10日~2月末
【栽植密度】 条間:25cm 株間:15cm 【資材展張状況】 南北棟 加温ハウス		

資材使用期間

通年張りっぱなし

試験区面積

495㎡